

桜船会だより

三菱電機大船地区定年退職者の会

第 33 号

発行日 2014.11.16

発行者 桜船会

発行責任者 萩原大義

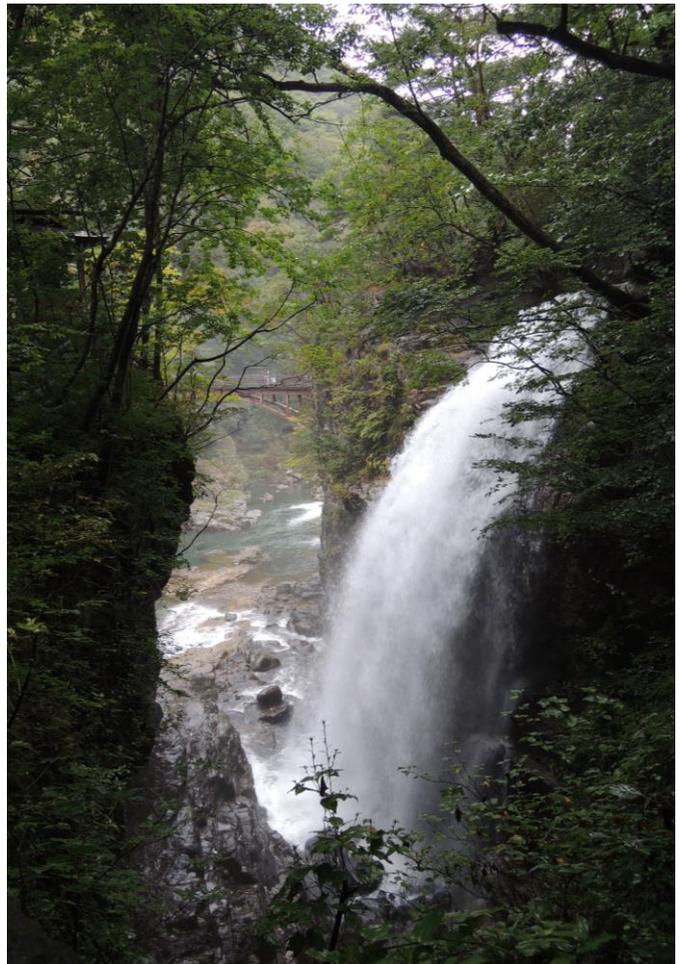
写真はいずれも秋のバス旅行（2014.09.24）にて



那須山頂駅付近



つつじ吊り橋



龍王峡

いきいきライフ：三菱電機を退職して
いきいきライフ：ハワイ島・オアフ島七日間の旅
会員紹介：名人・達人・超人・偉人・・・(その1)

会社訪問：情報技術総合研究所をたずねて
同好会活動報告：弘法山コッヘル開き山行き
桜船会：2014 年度秋の行事報告
事務局だより

山田壽郎
矢田雅敏
尾浦孝夫 田中紀彦 村木勢子 石井 茂
矢地富士雄 宇田川雅彰 茂垣 宏
岡田光生 渡部勁二
桜井貫智
伊藤興志夫
馬場景一
編集班

今年の5月15日に、年金受給資格の取得に伴い、40年近くお世話になりました三菱電機を完全に退職し、現在は話題の理研に勤務し、仕事は相変わらず知財関連業務に携わっております。

▼<理研 和光地区にて撮影>



私と大船地区との関わりは、私が伊丹地区から本社地区特許部に転勤した1980年秋から始まり、当時の船電、および商研（照明関係部門）を担当しておりました関係で、週1回程度のペースで大船地区に出張して参りました。その頃からマイクロ波放電光源装置、電球型蛍光灯等の開発が始まったように記憶しております。その後、現在の1棟の建設工事が開始されその基礎工事を船電出張の際に覗かせて貰ったことが数年前のこのように思い出されます。また当時大船地区にはエレ本（後にINS船）が駐在しており、そこに配属された技術系新人の知財教育の一環として特許明細書の作成講習会のために、雪道の足元を気にしながら、大船地区に出張したことも、今となっては懐かしい思い出の一つです。

1985年に1棟完成後、鎌電・計電・通電に分散していた（当時の）情電研該当部門が大船地区に集結したことにより、私は船電、商研、情電研を担当することになり、この頃から情電研（東部研究所各研、現情報総研）の各部門との関わりが増して来ました。他方職制的には、1989年早春から本社特許部の一部が総勢10名弱の先発メンバー（私はそのメンバーの一人）で、当時の15棟（旧通シ研建屋）に駐在し、その後の計電での一時的駐在を経て、現在の2棟の完成後1992年の12月に本社機能を除く実務関係部隊が当時の15棟に集結し、更に2000年前後に15

棟から4棟に移り、現在に至ったと記憶しております。ということで、約25年の大船地区勤務を含め、大船地区とは35年近く関わりを持たせて頂き、同地区の皆様方には大変お世話になったと改めて感じております。皆様方本当にありがとうございました！！

この9月から週休3日のパターンで理研（和光市）までドアツードア片道1時間半強で通勤致しております。そこの知財関連部門は発明相談・権利取得部門とライセンス（知財販売）部門とがあり、私は前者に属しております。三菱商事出身者、三菱ケミカルからの出向者、キリンビール出身者等の私と同年代のご面々も知財関連部門に勤務し、部門メンバーの年齢層は広範囲にわたっており、企業出身者としては結果として三菱系の出身者が多いようです。

和光地区の敷地面積は先端総研地区のそれと同程度くらいで、緑が多く構内には池もあり自然環境的には、そこそこのレベルで、以前は軍の敷地だったとのことです。

メタボ防止のためもあり、昼休みには昼食後構内を散歩することが多いですが、散歩の帰路時間を考慮して、昨日は〇〇研究棟まで、今日は◎◎研究棟までというように、散歩ルートを徐々に拡張している状況です。

勤務して間もないですが、メーカーの知財スタンスと公的研究機関のそれとの違いを痛感しており、知財活動に関し、これまでとは異なる実施例を体験しております。発明内容はどちらかというと情報総研というよりは先端総研近い内容で、学生時代に耳にした用語が入り交ざった発明内容の概要書に接しております。因みに、理研の知財関連業務は和光地区で統括しており、知財実務担当者は発明部門との連携のためもあり、適宜、神戸地区等の研究所に駐在しております。私は物理・工学系の研究部門に関与しておりますので、幸か不幸か、例のバイオ・再生科学系の部門とは仕事上の直接的関わりはないです。

少し堅い内容になりましたが、私の戸籍上の変動を含め他のエピソード的内容は別の機会にでも紹介させて頂きたく存じます。

桜船会の定例のOB会にはできる限り参加させて頂く予定ですが、今後ともよろしくお願い致します。

今年、私たち夫婦は金婚式を迎えます。記念に旅行をと、20年前に三菱電機ダイヤモンドプランで行ったハワイを選びました。ツアーは6組のペアで、若い人は新婚さんで、78歳になる私が最年長。羽田発のハワイアン航空で機体はエアバスA300でした。

6月1日ホノルル着。

ミニバスで半日観光、運転手兼案内人は日本語が達者なリーさん。イオラニ宮殿、カメハメハ大王像などを見て回りました。

ホノルル発ハワイ島への乗り継ぎカウンターで大失敗しました。ウクレレを弾く可愛い男の子を見ていたのですが、ポシェットがないのに気づき大慌て。“頭が真っ白になる”という表現があるが、このような状況を言うのだと納得した。再度検査場に行き状況の説明と、紛失したポシェットの色・形などを慣れぬ英語で説明し、やっとわかってもらえた。

ホノルルを飛び立った小型飛行機は、ハワイ島(コナ)へ。ホテルは、潮騒が聞こえるロイヤル・コナ・リゾート。夕食は和食レストランでポシェットの一件あり、お騒がせのお詫びをしてビールで乾杯。この夜は街中を歩くこともなく爆睡。

6月2日ハワイ島。

朝はホテル内でバイキング。小鳥がお客の食べ残しをつついていて。午後マウナケア山頂へ、夕日と星空観賞。案内はミネソタ生まれ、大阪育ちのクリスさん、4WD車にて標高4205mの山頂付近に上がり、サンセットを鑑賞。国立天文台ハワイ観測所の数々の建物が太陽を浴びているうちに、ピンクから紫、藍色へと染まっていく神秘的な夕日。日没とともにその姿を一変。全天が星空へ。世界で最も星空が美しく見えると言うこのマウナケアにいるのが信じられない。オニヅカ・ビジター・センター近辺で星空を鑑賞。私は高山病にやられ、眩暈がひどく車中から鑑賞。

満天の星、人工衛星の輝きにも言うことなし。

6月3日ハワイ島一周観光(約10時間)。

レインボーホールズを経てアカカの滝に虹。バス停で8弦のウクレレを弾く人がいた。近寄るとお前が弾けという。ちょっとお借りした。8弦のウクレレ

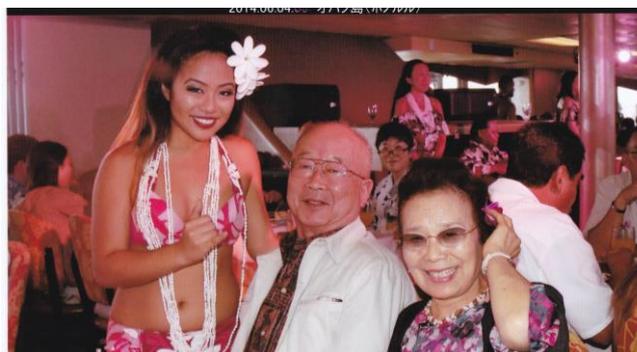
は初めて、いい音がする。もう一曲というので調子に乗って弾く。この辺りは野生の動物が多い。猪・孔雀・豚・山羊・マングース・飛べない鳥ネネなど。プナルー黒砂海岸では亀が2匹甲羅干し。キラウエアカルデラでは、煙が上がり迫力あり。米国最南端の緑砂海岸近くでは、三菱電機の風力発電の一群が活躍していた。ハワイ島ののんびりした一周旅行も終わった。

6月4日空路ホノルルへ。

ホテルはワイキキ・ビーチ・マリオット・リゾート&スパ。「アロハトロリー」乗り放題券を貰い解散。あこがれのOcean Viewだ。I夫婦と街に繰り出し夕食を共にした。

6月5日早朝5時半集合。

バスでダイヤモンドヘッドに向かう。同行者はN夫妻。山の登りは道も狭く、老齢の我々にはきつい。頂上からは眼下に海が見え、素晴らしい。朝食はフレンチトーストだったが、二人とも食欲なし。夜は待望のサンセットクルーズ。Star of Honolulu号は



1500人の客を乗せ、ホノルルの街を海上から見せる豪華船だ。船窓からはアラモアナ・ショッピング・センター、ヒルトン・ハワイアンビレッジ、アロハタワーや今朝登ったダイヤモンドヘッド等が見えた。蟹・肉などが豊富に並べられた。飲み物はブルーハワイを頼み、音楽もイブラエル、通称「IZ」にそっくりのハワイアンが演奏した。踊りもタヒチアンになり、バンバンと体を叩く音が最高。IZが乗船者各国の歌を演奏し、みんなが歌い踊り盛り上がりは最高潮。下船しバスで高台へ移動。

ホノルル市街の夜景観賞と記念撮影をしてハワイの旅が終わりました。

Mahalo!

会員紹介

桜船会のモットーは「いきいきライフ」ですが、ここでは趣味を超えた「凄ワザ」を持つ会員や普通の「いきいき」を超えたスーパーな会員をご紹介します。

写真とともに文章も頂きました。誌面の都合で文章は意味が解る程度まで、勝手に短縮／省略しています。ご了承ください。



<こどもたちの純粋なまなざしに感動！> 尾浦孝夫

サッカーの「審判」を卒業し、地域活動に参加しています。上郷小学校の5年生(105名)に担任の先生とともに「笑顔の門松」で有名になった技術を披露しました。材料の稲わらは上郷小学校「たんぼ」から収穫したものを使い、松・竹・梅・南天・千両は地域のご家庭からいただいたものです。



<ジャズピアノ> 田中紀彦

学生の頃より在職中を含めジャズバンドでピアノを弾いてきて、リタイア後も続けています。バンドの8人のメンバーのうち3人は50年以上一緒です。月例会では、古いジャズの演奏をおとしてお客様と楽しいひと時を過ごしています。



<俳句> 村木勢子

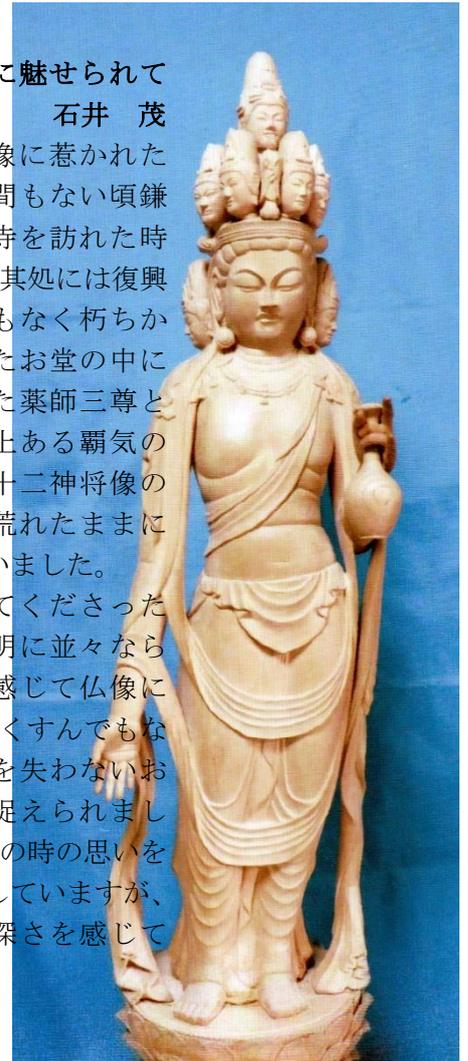
二か月に一回仲間と吟行に行く。長年指導していただいた二見喜一郎こと柳糸が本年5月亡くなられた。あちら側から笑って見ていただけることだろう。

辛口の柳糸語録や夜の長し 勢子

仏像彫刻に魅せられて
石井 茂

私が仏像に惹かれたのは戦後間もない頃鎌倉の覚園寺を訪れた時からです。其処には復興する予算もなく朽ちかけて傾いたお堂の中に堂々とした薬師三尊と等身大以上ある覇気のみなぎる十二神将像の仏像群が荒れたままに祀られていました。

案内して下さった和尚の説明に並々ならぬ思いを感じて仏像に対すると、くすんでもなお美しさを失わないお姿に心を捉えられました。今もその時の思いを持ち彫刻していますが、み仏の奥深さを感じています。



＜木彫りを遊んでいます＞

矢地富士雄

図書館で本を借りてきて
仏様をつくったのが始まりです。
達磨や牛などもつくりました。



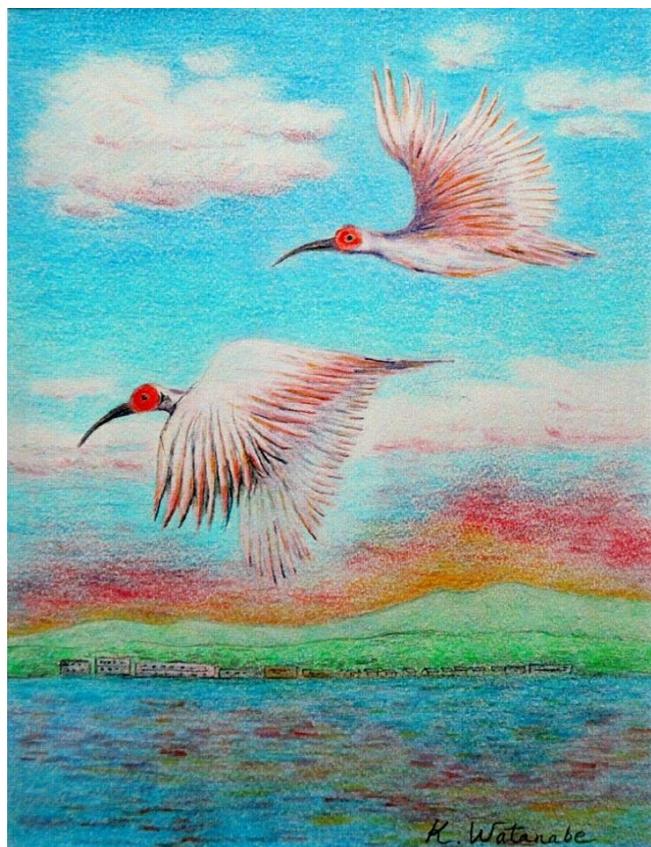
＜書道教室に夢中＞ 岡田光生

もう少し字が上手になりたいくて、28 歳から書道教室に通い始めました。46 歳には書道教室の師範に合格、63 歳の退職を機に近所の自治会館と自宅で書道教室を始めています。



＜四半世紀のウォーキング＞ 宇田川雅彰

40 歳前半に、ウォーキングを始めました。以降、四半世紀を歩いた距離は 15 万キロ近くになりました。お陰で体脂肪率は 15%前後をキープしています。写真は都会の中では比較的自然に囲まれた道で、時々歩いています。



＜マラソン＞ 茂垣 宏

100 km マラソン
2002 年サロマ湖ウルトラマラソン 11 時間 22'17"
フルマラソン
2008 年つくばマラソン 3 時間 16'44"



▲ ＜「色鉛筆画」に四苦八苦＞ 渡部勁二

書店でふと見た安野光雅著「絵のある人生」一見る楽しみ、描く喜び—に心動かされた。公民館の色鉛筆初心者講座を受けた。しかし、見たものをそのまま描くのではなく、頭の中にある想いを画にだすようにと言われ、四苦八苦である。このところ、ふるさと（佐渡）の風景を描いている。いつか田舎の空き家で作品展をしたい夢がある。

□□□

厳しい暑さが一段落した9月10日(水)、この地区の会社訪問の最後の締めとなる情報技術総合研究所(情報総研)へ伺った。今回の訪問では情報総研の伏見信也所長(M)殿がご多忙中にも拘わらず、時間を割いて自ら対応して頂けるというサプライズがあり、当日は恐縮しつつ、且つ、久しぶりに適度な緊張感を持って臨むインタビューとなった。訪問したメンバーは萩原会長、藤本編集班長、馬場幹事と筆者の4名である。会社側は井上人事課長殿が同席された。

初めにM殿から情報総研は何をして、どんな特徴のある研究所か、という事を分かり易く説明していただいた。まず世界一の暗号技術。約20年前に世界で初めて米国標準暗号の解読に成功し、以後当社の暗号アルゴリズムは通信するデータやプライバシーの保護の上で最も安全な暗号技術として携帯電話の国際標準暗号やISOの国際標準暗号等に採用され、国内外で各種の著名な賞を受賞している。暗号技術は身近な例では自動車のドアの開閉等にも使われている。この技術領域で著名な松井技師長の基礎研究部門では自由な研究スタイルで世界最先端の暗号技術の研究を行っている。

また国際宇宙ステーションまで無人・自動で到達し物資を届ける宇宙ステーション補給機(HTV)については、国産1号機の頭脳とも言うべき電気モジュールを三菱電機が開発している。HTVの安全・確実なランデブー・ドッキングは三菱電機が長年の衛星開発で培った高度な自立制御技術が支えていて、情報総研がこれに強く関わっている。

また準天頂衛星(初号機は三菱電機が設計、製造を担当)を利用した高精度な測位情報システムによる車の自動運転の研究等も行っている。

その他新幹線でのインターネット技術や電車内の扉上にあるディスプレイでの事故等の緊急連絡情報や商業表示技術などについての興味深い説明もあったが、誌面の制限もあり詳細は省略する。

人員構成面での特徴の1つは、最近女性技術者が増えており、且つ、部長や主管技師長、グループマネージャ等の管理職も増えてきている。会社ではこ

れらの社員の仕事と育児を両立する支援策として、新たに構内にダイヤモンドキッズという託児施設を建設中で、開設に向けた準備が進められている。子供を預けられないために働けない女性たちにとっては安心して仕事に専念できる保育環境が確保できることになる。インタビューの後、建設中の託児施設を拝見したが、ほぼ完成段階にあり、すぐにでも受入れが可能のように思えた。(施設は10月開所済)



ダイヤモンドキッズ湘南のイメージ図

人員構成面での特徴の2つ目は、グローバルな開発戦略を進めるために海外からの技術者を積極的に採用し、インターンも数多く受け入れていること。

一方、最近海外の販売拠点へ研究者を派遣して、直接現地のニーズの把握に努めているが、これは若い技術者に高い技術力に加えてビジネス感覚も保有させたいというM方針によるもので、世界中にアンテナを張り、研究者自身が生のニーズの発掘を行って必要な技術とのマッチングを行うことにより、真のマーケットインの製品開発を狙う、ということかな、と推察した。

研究開発の進め方については、テーマによって他研とのタイアップを行ったり、人事交流による活性化等も図っているとのこと。

最後に、今回伏見M殿のお話を伺って、非常に高度で難しい研究をマネジメントされている立場の方にも拘わらず、素人にも分かり易く、非常に丁寧にご説明いただいた事に感銘を受け、感謝を申し上げて、訪問記を終わります。 □□□

風薫る5月30日の金曜日、ハイキング同好会で備品購入したコッヘル開きを兼ねて、秦野の弘法山に登りました。因みにコッヘルとは携帯用の小型の調理器具のことで、ラーメンなどを茹でるときに使う鍋のようなものです。

当日は五月晴れとはいかないまでも、山登りにはちょうどよい天気でした。

メンバーは市川さん、富山さん、中野さん、福本さん、布施さん、藤本さんと私を入れて7名、小田急秦野駅に10時に集合しました。

食材は市川さんが事前に下ごしらえした物を準備して持参してもらいましたが、水については秦野駅近くの弘法の清水で調達することで、まずは足慣らしに街中を歩きました。弘法の清水は秦野盆地の湧水群の一つで、コンコンときれいな水が湧き出ていました。近所の方が野菜を洗いにきたりするそうです。

ここから弘法山登山口まで15分ほど歩き、やっと山道に入りました。まずは弘法山の手前にある権現山を目指しました。登山道はかなり整備されていて危険なところもなく、ゆっくり歩いても1時間もかからずに頂上に着きました。

権現山は標高243mで頂上には権現堂を模した展望台がありました。ここからは丹沢や箱根の山々と平塚の湘南平まで見渡せました。予定ではこの先の弘法山で昼食となっていたのですが、あまりにも景色がよいので早めの昼食ということになりました。



昼食は肉、野菜などコッヘルに放り込んでの寄せ鍋でした。料理ができるまで、福本さんが持参した腰越の有名なシラスを肴にワインでまず乾杯、そして

あとは皆さんが持ってきたビールや酎ハイを飲み、出来上がった鍋を腹いっぱい食べました。食後は締めコーヒーを飲み、後片付けをして本来の目的地の弘法山に向かいました。

弘法山までは桜馬場という広い整備された山道で、アップダウンも少なくまさに快適なハイキングでした。弘法山は標高237mでその昔、弘法大師が修業したと言い伝えのある山で、山頂は木々に覆われて眺望はあまりよいとは言えませんが、お堂の中には弘法大師の座像がありました。

ここで記念写真を撮って一路、吾妻山を經由して鶴巻温泉に向かいました。



吾妻山までは樹林帯の中を下っていくコースなので、青葉若葉の緑が目には染みました。夏は太陽の光をさえぎって涼しい山歩きができそうなコースでした。途中、小さなさなぎがたくさんのアリの集中攻撃を受けていたので、木の枝に救ってあげるといって、メンバーの心優しいハプニングもありました。

その後、午後3時前に鶴巻温泉にある弘法の里湯という日帰り温泉施設に到着しました。

この施設は秦野市営で料金もリーズナブルでした。浴室は大きくきれいで、汗をさっぱり流しました。入浴後は大広間で二度目の宴会となりました。

ここで在館制限時間の2時間まで目いっぱいゆっくり飲んで、午後5時すぎに小田急鶴巻温泉駅から帰路につきました。

ハイキング同好会は今年1月にできたばかりの同好会ですのでメンバーもまだ少なく、さらなる会員の参加を募っていますので、一緒に楽しいハイキングを楽しみませんか？ □□□

- 1) 行 先 : 那須高原と温泉
- 2) 実施日 : H26年9月24日(水)～25日(木)
- 3) コース : [1日目]情報総研9:00→那須IC→森のビール園(昼食)13:00→那須ロープウェイ山麓駅→山頂駅15:00→山麓駅→那須湯本グランドホテル愛寿(宿泊)
[2日目]ホテル8:30→那須温泉神社・殺生石→つつじ吊橋→日塩もみじライン→龍王峡(昼食)13:00→蓮田SA→情報総研17:00(解散)
- 4) 参加者 : 37名(内ご家族2名)
- 5) 天 候 : 台風16号の影響も少なく、24日は曇り、25日AMは若干強風の小雨、PMは曇りでまずまずの天気でした。

1日目は、森のビール園で美味しい生ビールとジンギスカンバイキングでランチを楽しみ、那須連山の主峰茶臼岳を目指し111人乗りの那須ロープウェイに乗りました。標高1,684mの山頂駅では風が強く体感温度約10℃の為、皆さん防寒具を着込み雄大な景色や高山植物の花リンドウを見て楽しみました。

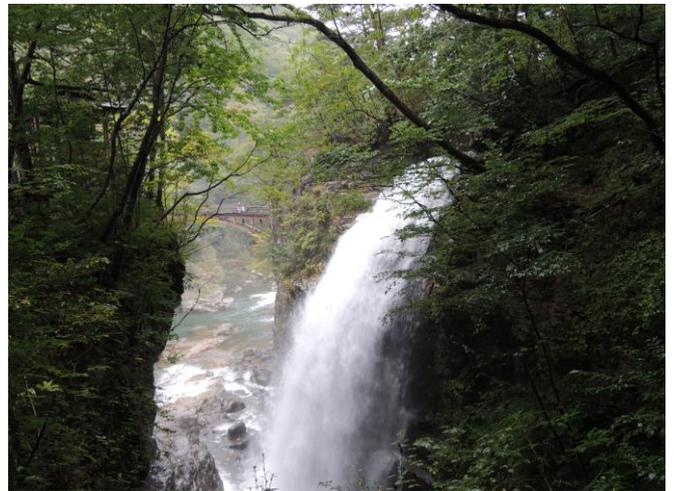


下山後冷えきった体を温めるため、宿泊先である那須温泉郷のグランドホテル愛寿に向かいました。

ホテルでは大きな温泉風呂に入り、その後全員で美味しいお酒とたっぷりの料理を満喫して、さらに有志によるカラオケもしました。

2日目は、那須高原の景勝地を散策した後、景色の良い日塩もみじラインをドライブし、龍王峡に向かいました。龍王峡では、約130段の急階段を下り、

虹見滝や火山岩が浸食された鬼怒川の景観を楽しみました。



その後階段を上って昼食をとりました。昼食後は道路の渋滞も無く順調なドライブで、早めの17時に情報総研に全員無事帰着しました。二日間、和やかな雰囲気での楽しい旅行でした。

事務局

会員動向

■会員動向(敬称略)

会員数: 289名(平成26年10月現在)

平成26年度入会者(2名) 村上篤道、片木孝至
物故会員数(2名) 大森真次、二見喜一郎

■編集後記

「会員紹介」の頁を設けました。お会いしたことのない会員や、会員名簿からはわからない趣味や凄ワザ、「いきいき」を超えた名人・達人ぶりには「びっくり」でした。「びっくり会員」の紹介はシリーズ化したいところです。

投稿・寄稿くださった皆さま、何度も文章の改訂をお願いしました。

ありがとうございました。(藤本)

編集責任者: 藤本孝信

編集委員: 桜井貫智 馬場景一 沼田孝治

印刷所: (株)さんこうどう